

理事長の子育て雑感

「ゆっくり、ゆったりが子どもの時間」

“お願い。早くしてちょうだい。” 遠い昔のことですが、子どもたちが小さかった頃、この言葉をどれだけくり返したことでしょう。子育て中の母親が一番多く口にする言葉が「早くして」だという調査結果を目にしたこともあります。

最近仕事をもつ母親がふえており、限られた時間で家事をしなければなりません。今日は帰りが少し遅くなってしまった、一刻も早く帰って夕食の仕度をしなければと気が急いでいる時に限って、一緒に歩いている子どもが道端にしゃがみこむのです。手にしているのは、小さな石ころ。「何それ。急いでいるのよ。捨てなさい。」こんな体験をお持ちの方は、多いのではないのでしょうか。私にもそんなことがありました。でも、こう言いながら私は心の中で“ゴメンネ。本当はゆっくり歩いて道端に咲いているカタバミやアリヤ石ころなど、あなたと一緒に眺めたいのだけれどお夕飯作らなければみんなが困るでしょ。”と謝っていました。子どもたちにとってそういう時間が大切なのだということを思いながら。

先日、幼稚園や保育園の先生方にお話をする機会があり、この話をしました。すると若い男性の保育士さんが「ぼくも毎日、『早く、早く』をくり返しています。それを言わなかったらこれから学校へ行き、社会へ出て行くこの子たちがうまく生きていけないだろうと思うからです。」と言うのです。「えっ？」一瞬頭の中が白くなりました。そして、急かしてゴメンネは時代遅れということかしらと考え始めました。

今や私たちの生活は機械に支えられています。炊飯器、電子レンジ、冷蔵庫、…皆便利です。これらのない生活など考えられません。手を抜けて、早く思い通りに動いてくれるので機械はとてもありがたい。竈（かまど）で御飯を炊き、盥（たらい）でお洗濯する日々を考えたら、悲鳴をあげたくなります（暫く前まではそうだったのです）。機械を悪者にするつもりはありません。でも、機械の便利さに慣れて、なんでも早くできて、手をかけないで、思い通りにできるものと思ひ、それをよいことと決めてしまうのはどうでしょう。

生きものは、時間をかけて育っていくものです。子どもは手がかかりますが、手をかけることに喜びがあります。もし子どもたちが、お父さんもお母さんもいなくていいよ。自分でちゃんとできるからと言い始めたら寂しいでしょう。しかも機械と違って子どもたちはなかなか思い通りになりません。でもそこが面白い。時々思いがけないことをやってこの子天才かなと思わせてくれたりします。

それなのに、早く、早く、と言わなければ社会に合わなくなってしまうと心配するのは、子どもを生きものでなく機械のように見ているのではないかととても気になります。

電車の中で皆スマホを見ている社会です。これからの傾向は更に強くなるでしょう。人工知能の開発も盛んですし、自分で判断して動く家電がふえてくるに違いありません。機械は本来人間とはまったく違うものです。人間は生きものなんだということを忘れずに、ゆっくりと道端の草や虫とつき合う時間を大切にしないと、人間まで機械のようになりかねません。子どもの時が大切です。一見ムダに見える時間を大切にゆっくり、ゆったりでいいんだよという気持ちを失うことのないように、大人が気をつけなければならないのです。

このお話しは、JT生命誌研究館 中村桂子館長が幼児教育誌に掲載されたものです。皆様はどのようにお感じになりましたか。私も常々園の教職員に、お子様を「生きものとして育てる様に！決して機械の様にすることのないように。」と話しております。そうした、今こそ我々大人こそが大切にしなければならない別れ道にいるように思います。